

(第3種郵便物認可)

2023年(令和5年)8月9日(水曜日)

5頁

No. 2757



教育ルネサンス データサイエンス 5

学ぶ育む

社会人に講座 人材育成

社会人のデータサイエンス教育も注目されている。

7月20日夜、一般社団法人「数理人材育成協会」代表理事の鈴木貴・大阪大特任教授が、オンラインで社会人向けの「データサイエンス基礎コース」の授業を行った。週に1度、計18回行う授業の15回目で、「正規分布」などについて数式を使って解説した。

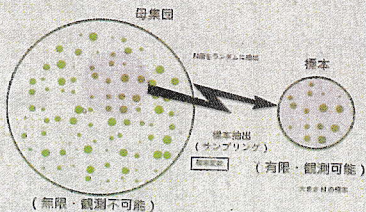
受講した金融機関勤務の会社員男性(61)は今年2月に経済データを扱う部署に配属になったといい、「高校以来の数学の勉強なので難しいが、体系的に学べてありがたい」と話した。

2019年設立の同協会は、学生向けの授業を社会人向けにアレンジしたり、企業

の要望を踏まえたカリキュラムを開発したりして「初級」から「実践」まで6段階のレ



数理人材育成協会代表理事の鈴木貴氏(右)。同協会では、社会人のデータサイエンス教育の普及を目的として、オンラインで社会人向けの「データサイエンス基礎コース」の授業を行っている。

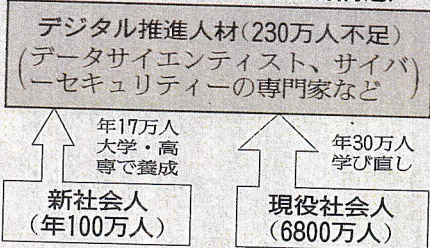


数理人材育成協会のオンライン授業で解説する鈴木代表理事(右上)

ベルで講座を開講。初めて学ぶ人から実際に企業でデータを扱う社会人まで、様々なニーズに応え、これまでに約800人が受講したという。

政府は、データサイエンティストなどDX(デジタル

国のデジタル人材育成構想



(政府の資料より作成)

ランスフォーメーション)を担う「デジタル推進人材」が現時点で230万人不足していると推計。26年度末までに確保したい考えで、大学・高専の新卒で年間17万人、現役社会人の学び直しで年間30万人を育成する体制を整える。

経済産業省では昨年3月

末、大学や民間事業者による

DX講座を紹介するインター

ネットサイト「マナビDX」

を開設した。一定の基準を満

たした講座が対象で、数理人

材育成協会が提供する講座

も、このサイトで紹介されて

いる。経産省では、同省主催

のハイレベル無料講座も開

講。実際の企業データを扱っ

た実践的な内容で、昨年度、

約2100人が受講した。

データサイエンス人材は転職市場でも需要が高まっている。人材総合サービスの「エン・ジャパン」によると、今年1〜6月の35歳以上の求人

は、昨年同期の4倍にのぼる。IT関連人材の転職紹介を担当する星野玲さんは「企業が生き残りをかけ、顧客データを活用しようとする動きは当面続く。データを扱ったことのある経験者の需要が非常に高い」と話す。

一方、幅広い層への教育の重要性を訴える声もある。数

理人材育成協会の鈴木代表理

事は「学習指導要領や大学教

育も変わり、新入社員データスキルも高い。社会人も学

ばなければ、新入社員が何を

言っているのかわからなくな

る」と指摘。「社会全体が、

データをもとに産業を活性化

しようとしており、あらゆる

層でデータサイエンス教育は

必要だ」と力を込めた。

*この連載は伊藤史彦、山

田睦子、宇田和幸が担当しま

した。次回は「先生第4部」

の予定です。